

例会報告 Rotary



財団補助金事業準備

- 例会日 毎週金曜日 12:30~13:30
- 会長 下屋勝比古
- 例会場 高山市花里町3-33-3 TEL 34-3988
- 幹事 塚本 直人
- 大垣共立銀行高山支店 4F
- 会報委員長 挾土 貞吉

世界に希望を生み出そう

<会長の時間>

相撲名古屋場所もいよいよ大詰め。3 関脇の大関昇進がどうなるか見えてきました。

今年の名古屋場所には、猛暑の名古屋まで有志会員の方々と観戦に行きましたが、いかがでしたでしょうか？初日は横綱土俵入りもありましたが、私たちが行きました中日7月16日は、休場していましたのでやや寂しかったですが熱戦が多く、土俵築に来てくれた呼び出し「光昭」や「節男」にまで大きな声援を送り、最後は座布団が舞った楽しい本場所でした。

さて、われわれの財団事業も開催まであと9日となりました。杉山財団実行委員長には今年に入ってからたくさんご心配や準備をしていただきました。ぜひ皆様方におかれましても、いっしょ講演会となりますよう当日のお手伝いをお願いいたします。

先週は、柔道の帯や嘉納治五郎の教えなどについてお話をしました。では、大相撲についての歴史を少しお話します。そもそも人が集まれば力自慢や強さを比べるのは自然な行動だったようで、子供のころは各町内に土俵があり、学校でも休み時間にはハンドベースボールという野球か、人数が少ないと校庭に丸を書いて相撲をしました。

世界各地にも相撲のような格闘技が今はスポーツとして、レスリングやサンボ、モンゴルや韓国などにもそれぞれ独特のルールの相撲がありそのチャンピオンが大相撲に入ってきます。日本でも古い遺跡から人が組み合っているような埴輪（はこわ）が出てきたりしています。弥生時代にはその年の豊作を願い、また吉凶を占うなどの祭りでも相撲を取っていたようで、それが徐々に発展して全国各地で「天下泰平」や「五穀豊穰」を祈るための重要な行事として力自慢を集め豊作祈願神事になったようです。今の様に土俵がなくても倒すまで競い合う簡単なルールですので盛り上がったのでしょうか。やがて天皇の前で天覧相撲が行われるようになり、地方から強い男が集められ鍛えられていったものと考えられます。

やがて時代は武士の時代となり、戦の訓練として鎌倉幕府や安土の時代も力自慢を集めて競わせ勝ち抜いたものは家臣として取り立てたようで、相当強いものは、「武士」としての地位が与えられ昇格しました。現在横綱が土俵入りで入場する際に、露払いと太刀持ちを従えて入場するのは、大名レベルの扱いをした表れのようなのです。ちなみに屋敷の庭で土俵入りをするので、木の枝についた露で横綱が濡れないように先頭を歩く係を「露払い」といい太刀を持つ係が後ろをついてくる名残です。また横綱には直垂

(ひたたれ) を付けてあり、神事である儀式も兼ねています。

江戸時代は神社仏閣建設の資金集めの手段として、勧進相撲が盛んにおこなわれ、浪人や力自慢が集まって各所で大盛況のイベントとなり、興行は定期開催するようになって、庶民の娯楽として大熱狂していったようです。大熱狂が起これば面倒なことになるのでやがて幕府はトラブルや喧嘩がしょっちゅう起こったため、禁止にしたものの開催を嘆願され、「御免被」の許可書を発行して管理していったようです。いまも場所の入り口には「御免札」がかかっています。昔は、開催を知らせる手段がないため櫓を立て、そのうえで「呼び出し」が太鼓をいろいろ打ち分け庶民に開催を知らせ、取り組みごとにしこ名を呼びあげ、審判である行事が裁き懸賞金を出して盛り上げ、拍子木で間を取り最後は弓取り式で締める。まさにすべて完成された娯楽の殿堂です。

ロータリークラブは、「点鐘」で始まり、歯車のようにクラブ会員が団結し、他のクラブとかみ合い、力を伝え発揮していくという欧州文化的で団結した団体戦を感じます。今回の「日本文化に触れる」ことで、欧州文化と日本文化の凝縮された高山にあるわが西ロータリークラブが、融合された一つの文化を作っていけたらいいなと多様性の生き方の時代に、個人を大切にしながらうまくかみ合って力を発揮する団体になっていくように、皆さんのお力を結集して30日どうぞよろしくをお願いいたします。

<幹事報告>

◎ガバナーより

- ・ガバナー事務所、地区開会事務所、地区事務所 夏季休暇のお知らせ 8月11日(金)~8月16日(水)
- 緊急連絡先 地区代表幹事 山本 和彦

◎ガバナーエレクトより

- ・ガバナーエレクト事務所夏季休暇のお知らせ 8月11日(金)~8月16日(水)
- 緊急連絡先 次期地区代表幹事 的場 敏訓

<例会変更>

- 高山 … 8月 3日(木)は、納涼ゆかた例会のため、18:30~ 八ツ三館に 変更
- 8月17日(木)は、規定休会
- 8月31日(木)は、規定休会
- 可児 … 8月10日(木)は、定款により 休会
- 8月17日(木)は、定款により 休会
- 8月24日(木)は、納涼例会のため、11:00~ リバーポートパーク美濃加茂に 変更

例会報告

<受贈誌>

R I 日本事務局 (クラブ・地区支援リソース集)、高山RC (会報)、
下呂RC (活動計画書、会報)

<出席報告>

出席	Make-Up	出席者数	会員数	出席率
24名	—	24名	37名	66.67%

<今月のお祝い>

門前 庄次郎

- ・在籍 20 年周年記念表彰
- ・7. 22 誕生日
- ・前年度ニコニコ年間表彰
金額第 3 位



<本日のプログラム> 決算・予算報告



2022-23 年度会計代理 大村 貴之



2023-24 年度会計 田中 武

昨年度は 3 年振りに例会取り消し無く計画を遂行出来た中で、感染対策も含め移動車両の大型化と、燃料や物価高騰により旅費・記念品費が予算を上回りました。また ZOOM 接続環境整備のためライセンス取得、web カメラ・PC 等購入を予備費より支出しました。

これまで継続してきましたロータリー財団への会員一人当たり 150\$ 寄付について、円安が進行する中例年通りの特別会費の範囲内では対応できない為、今年度 100\$ と理事会にて決定させていただきました。

財団補助金事業準備

実行委員長 杉山 和宏

いよいよ来週末となりました二所ノ関親方講演会、会員皆様には勝手ながら担当を割り振りさせて頂いております。よろしくご協力の程お願い致します。お手元の資料に沿って説明いたします。



<ニコニコボックス>

●下屋 勝比古さん、大村 貴之さん

塚本幹事、田中晶洋副幹事の代行で大村貴之副会長、今日はよろしくお願ひします。

●杉山 和宏さん

いよいよ来週 30 日、財団補助金事業 二所ノ関親方講演会を行います。本日スケジュール、お手伝いの内容を説明させていただきます。会員の皆様お力をお貸し下さい。よろしくお願ひ致します。

●堀 幸一郎さん

長女が孫を連れて帰省してきました。2 週間もいるそうです。よくよく考えてみたら上京してからこんなに長く高山に滞在する事は初めてです。正直嬉しいものですね、今の状況に感謝です。

●中島 一成さん

昨日、当ホテル開業 50 周年記念パーティーを開催しました。50 年間に亘りご愛顧賜り誠にありがとうございます。次の 50 周年高山を代表するホテルであり続けられるように頑張りますので、引き続きのご愛顧を宜しくお願ひ致します。昨日パーティーにご出席いただきました皆様、誠にありがとうございました。

●岡田 賛三さん、田近 毅さん、米澤 久二さん、堺 和信さん、大村 貴之さん、田邊 淳さん、杉山 和宏さん、佐藤 貴史さん

7 月 20 日高山グリーンホテルさんの 50 周年記念レセプションパーティーが盛大に行われました。おめでとうございます。

●田近 毅さん、平 義孝さん、米澤 久二さん、田中 武さん、門前 庄次郎さん、堺 和信さん

「我が相撲道に一片の悔いなし」7/30 は稀勢の里 二所ノ関親方の講演会です。皆様「我がロータリー道に一片の悔いなし」で頑張らしましょう！！

人間力を高める

第3回

『人間力の高い社会は認知症になっても暮らしやすい』

会報・雑誌・広報 副委員長

高井 道子

丹野智文さんという39歳で認知症になった人がいます。

宮城県に生まれ、東北学院大学卒業後、ネットヨタ仙台でトップセールスマンとして活躍していた2013年、若年性アルツハイマー型認知症と診断されました。その苦しみはいかばかりだったでしょう。それを乗り越え、2014年には全国の仲間とともに、国内初の当事者団体「日本認知症ワーキンググループ」を設立、2015年から認知症の人が、不安を持つ当事者の相談会「オレンジドア」を仙台市内で開きました。また、認知症当事者の気持ちを社会に理解してもらおうと日本中を講演して活躍しており、2023年には全国組織「認知症のひとと家族の会」の理事に就任しました。

今回この丹野さんの実話を映画にした「オレンジランプ」が金沢で上映されました。この映画に登場する人たちは、実に人間力の高い人たちで、見終わった後、じわーっと感動の波が押し寄せてきてしばらく席を立てませんでした。そして心がまっこと温かくなりました。はじめはなぜこんな気持ちになるのかよくわかりませんでしたが、主人公を取り巻く環境がほぼ理想に近い社会で希望の持てるつながりを見せられたからだと思いました。

これは、今年のロータリーの「世界に希望を生み出そう」というRI会長テーマを具現化した世界だと感じました。

丹野さんが家に帰れず行方不明になった時、家族と一緒にサッカークラブの仲間総動員で探してくれたり、症状が進みミスが多くなって仕事に限界を感じ、あきらめて退社の決心をした時も、職場の仲間や上司や社長までもが、困ったことがあれば助けるからと職場の皆で認知症サポーター養成講座を受けて「辞めないでいい」と励ましてくれたりしたので、まだ人生をあきらめなくていいんだと認知症とともに生きる決心をします。第一線の自動車販売会社でこのような対応をとることができたことに驚きを禁じえませんでした。

認知症になって人生に絶望を感じている人を温かいつながりで支えていくことは本当に難しいことですが、まさに丹野さんの周りの世界が支えあう世界を作っていたのです。

彼は、訴えます。認知症と診断されたからと言ってその日から何もできなくなるわけではない、今までの人生は続いているので、できることはたくさんある。話もできる。先回りして話すことやできることを奪ってほしくない。少し待ってくれたり、できないことだけ手を添えてくれればいいだけなんだ。そして、私達当事者には、「困ったことは？」ではなく「やりたいことは？」とまず最初に聴いてほしい、と。

丹野さんは、本当に認知症なのかと言われるほど、ご自分の意思をはっきりと表現されますが、約束したことを忘れて、顔が認識できず社長の顔を忘れてしまったりとやはり症状はあります。ただスマホの機能をフル活用したり、様々な工夫をしたり、パートナーに支援してもらいながら明るく過ごしています。まさに人間力の高い人たちに囲まれて希望をもって生きているのだと思います。

私は、認知症の人達からまたその周りの人達にも高い人間力を見せられて今まで一緒に過ごしてきました。ロータリークラブのみんなで支えあう人間力の高い社会を目指してさらに努力していきたいと思います。